

目次

令和3年度 青臨技 第2回輸血・移植検査部門研修会報告	- 1 -
令和3年度 青臨技 臨床生理部門研修会報告	- 1 -
令和3年度 青臨技 臨床一般部門研修会報告	- 2 -
令和3年度 青臨技 生物化学分析部門研修会報告	- 3 -
令和3年度 青臨技 病理検査・遺伝子部門研修会報告	- 4 -
令和3年度 青臨技 臨床微生物部門・染色体遺伝子部門合同研修会報告	- 4 -
令和3年度第4回理事会議事録	- 5 -

【研修会報告】

令和3年度 青臨技 第2回輸血・移植検査部門研修会報告

弘前大学医学部附属病院 小山内 崇将

令和4年2月12日に開催した「令和3年度 第2回青臨技輸血・細胞治療部門研修会」について報告します。今回はオーソクリニカルダイアグノスティクス株式会社 学術部門に依頼し、ケーススタディー形式の研修会となりました。

本来、ケーススタディー形式の研修会は実技実習やグループディスカッションを取り入れて行っていたのですが、コロナ禍のため実技実習が困難なため事前課題を配布し、その解答・解説を行う方式で開催しました。

今回の研修会の症例は ABO オモテウラ不一致例ということ、Zoom での開催ということもあり、輸血検査に関わる機会が少ない方・経験年数の浅い方など多くの方に参加いただきました。

事前課題には症例の患者情報をはじめ、初回検査結果や様々な追加検査の結果が記載されており、各追加検査の結果毎にその結果から考えられることを回答していただく形をとったため、検査を進めるうえで重要な考え方を学ぶことができたと思います。

研修会後のアンケート結果から、資料・課題の事前配布によりあらかじめ各自の疑問点などに集中して聞くことができるといった意見が多く寄せられたため、今後の Web 研修会でも採用していきたいと思えます。

また、輸血検査の実技面での不安なども寄せられていましたので、その点を解消できる Web 研修会について、今後検討していく必要があると感じました。

令和3年度 青臨技 臨床生理部門研修会報告

青森県立中央病院臨床検査部 田嶋 育子

令和3年度臨床生理部門研修会を、今年度はWeb開催とし、1月20日(木)および1月26日(水)の2回にわけて開催いたしました。臨床生理部門は、従来ハンズオンセミナーなど実践を盛り込んだ研修会でしたが、Web開催で

つくり勉強できるよう、講師に依頼して開催することができました。

研修会 1 回目は、青森県立中央病院臨床検査部の佐藤舞技師に、「肺機能検査のガイドライン改訂のポイント、日臨技・青臨技精度管理調査解説」についてご講演をお願いしました。今年度、呼吸機能検査のガイドラインとして位置づけられている「呼吸機能検査ハンドブック」が17年ぶりに改訂され、日常検査でぜひ知ってきたい内容について解説していただきました。肺活量測定VCの再現性判断は、200ml以下から150ml以下に変更されたことなど重要な内容でした。精度管理調査解説については、特に青臨技精度管理調査肺機能検査設問では、精度管理に関する正答率が昨年からやや改善はしたものの、今年度も55%であり、おそらく会員の苦手とする分野と思い、研修会で改めて解説していただきました。今回の研修会を機に、各施設で肺機能検査精度管理が、適切に実施されることを期待しています。また事前に頂いた質問では、コロナ禍での感染対策の実際についての内容が多く、青森県立中央病院での対策についても紹介いただきました。

研修会 2 回目は、弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座助教の妹尾麻衣子先生に「大動脈弁狭窄症の心エコー評価について TAVI 症例前後の評価も含めて」についてご講演いただきました。近年、大動脈弁狭窄症症例が増加していることに加え、県内 2 施設で経カテーテル大動脈弁置留術(TAVI)が実施されており、TAVI 術後患者が治療施設でない病院でも、経過観察される機会が増えてくることが予想され、評価方法についてご講演いただきました。普段から心エコーに従事されている妹尾先生ならではの、実際に検査する技師の立場に立った視点で、計測部位の具体例や、弁逆流合併症例での評価方法などご講演いただきました。非常に理解しやすい内容で、ルーチン検査で役立つ内容が満載でした。今回は Web であることを利用して、講演の間に ZOOM の投票機能で、参加者にアンケートを取りながら進めたことは、会員の実態が把握できてよい取り組みでした。

今回は初めての Web 開催ということで、いくつか戸惑う点もありました。会場開催の場合、参加者の反応を見ながら、講演や質問を進めることができますが、ZOOM の場合、大半の参加者がビデオを利用しておらず、参加者の反応がわからず、理解が得られているのかなど雰囲気掴みにくいなど課題も見えました。その反面、参加者は講演スライドをじっくり見ることができるなど、良い点もあるなど感じる研修会でした。今後はハンズオンを Web でも経験できるような研修会作りを検討していけたらと考えています。今回は不慣れな Web 開催の運営に関して、齋藤会長ならびに他部門部門長、臨床生理部門員に支えていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

令和 3 年度 青臨技 臨床一般部門研修会報告

八戸赤十字病院 阿部紀恵

令和 3 年度の臨床一般部門研修会は、平内町国民健康保険 平内中央病院の坂牛省二技師を講師に迎え、鏡検力 UP 大作戦シリーズとして全 3 回にわたり開催されました。各回で尿沈渣成分のテーマを決めて 1 時間じっくりと解説して頂き、講演の前後で参加型のフォトテストを実施することで、Web 開催ながらも講師と参加者でコミュニケーションを図りながら研修会が進められました。

①『鏡検力 UP 大作戦！～尿沈渣 赤血球編 plus+～』 令和 3 年 10 月 14 日開催

赤血球形態をテーマに、糸球体型赤血球と非糸球体型赤血球の鑑別点や、赤血球形態の報告方法、予想される病態までを丁寧に解説して頂きました。過去の青臨技精度管理調査で低正解率を示した赤血球形態設問についても解説して頂き、青森県が苦手とする形態に焦点をあてて復習することができました。講演前後で赤血球形態のフォトテストが 4 問ずつ実施されましたが、特に糸球体型赤血球の正解率が向上しており、参加者も理解が深められたことを実感できたのではと思います。

②『鏡検力 UP 大作戦！～尿沈渣 上皮細胞編 plus+～』 令和 3 年 11 月 4 日開催

上皮細胞類の鑑別をテーマに、腎・尿路系を構成する上皮細胞の特徴を解説頂きました。特に尿細管上皮細

胞に関して、形態的特徴だけでなく細胞の成り立ちや多彩な形態変化が起こる機序について詳細に教えて頂きました。尿細管上皮細胞は他の沈渣成分と類似することが多く、鑑別に迷う成分の代表格ですが、“なぜこのような形態で尿沈渣に出現しているのかを理解して鏡検する”ことの重要性を学ぶことができた講演でした。

③『鏡検力 UP 大作戦！～尿沈渣 異型細胞編 plus+～』 令和3年11月25日開催

異型細胞の組織別の特徴をテーマに、発生頻度や出現形式、類似する沈渣成分との鑑別方法などを解説頂きました。異型細胞は正常組織の形態的特徴から逸脱することが多い成分ですが、細胞質の構造に注目することで、由来する組織は推測可能であると理解できました。また異型細胞や異型細胞のようにみえる細胞集塊に遭遇した際の報告方法なども示して頂き、日常業務で悩んでいた方の参考になったことと思われま

す。全3回を通じて、県外からもたくさんの方にご参加頂きました。研修会にはたくさんの質問もお寄せ頂き、尿沈渣検査への関心度の高さも窺えた研修会でした。講師の坂牛さんをはじめ、参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

令和3年度 青臨技 生物化学分析部門研修会報告

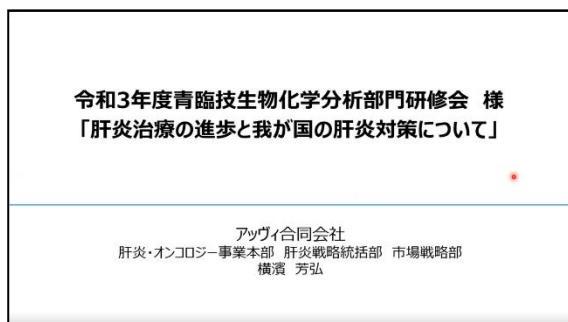
十和田市立中央病院 白山 楓亜

令和4年2月25日（金）、Webにて「令和3年度青臨技生物化学分析部門研修会」が開催され26名の方が参加されました。今回の研修会では2題の講演が行われました。

まず、「肝炎治療の進歩と我が国の肝炎対策について」と題して、アッヴィ合同会社の横濱芳弘先生より第1講演がありました。治療薬の進歩により、ウイルス性肝炎撲滅を目標に掲げることができるようになったと説明いただきました。ウイルス肝炎の早期発見だけではなく早期治療に繋げることが重要であると分かりました。

次に、「ウイルス性肝炎撲滅における臨床検査技師の役割」と題して、十和田市立中央病院の前山宏太技師より第2講演が行われました。青臨技会員施設へのアンケート調査の結果も交えながらの講演でした。臨床検査技師による啓蒙活動や多職種連携の主導を始めとして、院内全体で活動に取り組む必要性を知りました。またアンケート調査の結果から、臨床検査技師としての今後の目標が見えてきたと感じました。

今回の研修会の開催は、青森県内での肝炎撲滅活動・肝炎コーディネーターの認知度向上に加え、より一層活動が広がるための一助となったと思います。





令和3年度 青臨技 病理検査・遺伝子部門研修会報告

八戸市民病院 須藤 安史

2022年1月22日、13時15分より令和3年度青臨技病理検査・遺伝子部門研修会を開催しました。今回は、コロナ禍の情勢を勘案し、Zoomミーティングを利用したWEBによるLive形式での運用としました。今回の研修会は、現在の日本国内で推し進められているがんゲノム医療の現況、遺伝子検査の知識向上を目的とした内容としました。県内でがんゲノム医療拠点病院の取り組みを2019年より行っている弘前大学医学部附属病院より、腫瘍センター長ががんゲノム医療室長の佐藤温先生及び、病理診断部の黒瀬頭先生のお二方の先生より講演頂きました。佐藤先生からは、コンパニオン診断から現在のがんゲノム医療の変革、そして患者に寄り添い治療に当たる姿勢を丁寧に説明頂きました。黒瀬先生からは、がんゲノム医療に関わる病理検査の現場と、その遺伝子検査から得られた検討事項等について幅広い視点からの報告を頂きました。この2つの講演を通して、病理検体の適切な取り扱いの再認識と、ゲノム医療に取り組むためのチーム医療の重要性について考えさせられました。がんゲノム医療に直接関与していない施設においても、今回講演頂いたような臨床背景、患者背景を踏まえたルーチン業務への取り組みが必要と思いました。アークレイマーケティング株式会社の柴崎涼先生からは、遺伝子検査の基礎的な内容の講演を頂きました。内容は特に病理検査に限らず、他領域の遺伝子検査も含めての報告でしたが、わかりやすい説明で、遺伝子検査の知識の幅が広がったと思います。また、私からは医療安全に関して、病理検査におけるインシデント事例とその対策を報告させて頂きました。インシデントの要因を考えた際に、テクニカルスキルの部分のみに視点が向かいがちだが、ノンテクニカルスキルを発揮することにより、防げる内容もあること、そしてそのノンテクニカルスキル啓発の取り組みについて報告をしました。休日の午後、そして県内の新型コロナウイルス感染拡大による影響で大変な状況の中、県内外の会員の方に参加頂きましてありがとうございました。病理検査業務への取り組み姿勢について考えさせられる非常に有意義な研修会となりました。

令和3年度 青臨技 臨床微生物部門・染色体遺伝子部門合同研修会報告

青森市民病院 小山敬大

令和4年2月22日にzoomで行われた青臨技臨床微生物部門・染色体遺伝子部門合同研修会について報告いたします。

講演1では八戸市立市民病院の高畑英智技師による「青臨技精度管理調査報告」が行われました。遺伝子検査においては、検体の混和、攪拌の不備が結果に大きく影響することが指摘され、簡便な操作で測定可能な機器が多く使用されている現状で、今一度手技の再確認が必要であると実感しました。

講演2では弘前大学医学部附属病院の大杉悠平技師による「各施設における新型コロナウイルス検査の運用」

が行われました。弘前大学医学部附属病院での新型コロナウイルス流行初期から現在に至るまでの患者背景、検査時間ごとの使用機器の説明、抗原定量検査における再検査を実施する値の決定方法を講義していただきました。

講演3では八戸市立市民病院の鎌田恵理子技師による「各施設における新型コロナウイルス検査の運用」が行われました。八戸市立市民病院の新型コロナウイルス流行初期から現在に至るまでの患者背景、検査時間ごとの使用機器の説明、検査方法、運用方法での困った点を講義していただきました。

複数の新型コロナウイルスの検査方法がある施設は、感度、測定時間、手技の煩雑さ、患者背景などの様々な要因を考慮し、検査方法を選択しているのではないのでしょうか。当院でも、第6波の影響で検査試薬、物品の供給が少なくなり、検査方法を変更せざるを得ない状況になっています。そういった中で、他施設の運用状況を知ることができ、検査に付随する作業の多さ、運用体制の変更の多さなど、非常に共感できる部分も多くあり、大変有意義な講演でした。今後もこのような研修会に参加したいと考えます。

令和3年度第4回理事会議事録

1. 日時：令和3年12月11日（土）14:00～15:30
2. 場所：青森県観光物産館アスパム（8階しらかみ）
青森市安方一丁目1-40 Tel:017-735-5311
3. 出席者：齋藤浩治、石山雅大、奥沢悦子、木村正彦、野坂知加、吉田泰憲、逆井久美子、小山内誠、川口裕美、高松みどり、細川和子、番場隆彦、米沼順子、神山哲哉、河村義雄、吉岡治彦、三上英子、太田孝雄
4. 欠席者：吉岡拓朗、本田昌樹

定款第5章第32条及び諸規定により、議長に齋藤会長があたり、書記に高松理事が指名され、審議が行われた。審議は、会場・オンラインのハイブリット開催で行われた。

【報告事項】

1. 学術部経過報告

石山学術部長より精度管理と研修会について以下の報告があった。

精度管理は無事終了し、回答速報も順次報告されている。今年度は電話による質問等の問い合わせが非常に多かったため、来年度以降はホームページにQ&Aコーナーを作るなど対応を考えていきたい。研修会に関しては、北日本生化学部門研修会が終了。各部門WEB研修を実施・計画している。

2. 公益部経過報告

奥沢公益部長に代わり齋藤会長より以下の報告があった。

高校心電図健診について

10月2日ですべて終了となった。派遣できる技師が高齢化等で少なくなってきたため、これから退職となる方に協力をお願いしてほしい。支部内で対応できない場合は近隣支部から応援での対応をお願いしたい。

野球肘健診

以下の日程で小中学生野球選手を対象に実施された。

むつ市：11月14日（日）：検査技師5名

弘前市：11月27日（土）：検査技師3名

11月28日(日):検査技師3名

青森市:12月4日(土):検査技師4名

12月5日(日):検査技師0名(要請なし)

離断性骨軟骨炎(OCD)疑い:むつ0名、弘前5名、青森3名(約1.5%)

十和田地区からも問い合わせがあり、年度内に行う可能性あり。

今後参加技師を増やしていきたい。

3. 渉外部経過報告

木村渉外部長より「災害対策支援規定」について以下の報告があった。

日臨技で災害対策支援を速やかに行うため、各都道府県と協定を結び、支援と受援を行うためのマニュアルを作成することとなった。日臨技よりマニュアルの雛形が来ているためそれを基に青臨技の雛形を作成していくこととなる。具体的には災害対策本部を立ち上げる際の基準、連絡網や手順を決めなくてはいけない。まず協定を結び、マニュアルを作成していくという流れになる。

4. 事務局経過報告

野坂事務局長より以下の報告があった。

永年会員の募集を12月10日期限で募集し、3名の応募あり。永年会員の中でも日臨技を継続する方に関しては会費免除の手続きをとらなくてはならない。賛助会員は11月30日期限で募集し、38社より申込あり。求人は4月1日～12月8日までで10件、ホームページにアップした後、詳細はサイボウズのファイル管理に保存している。齋藤会長より各種書類等をサイボウズ内のファイル管理内に保存しているので、どこに何があるかわかりやすく事務局で整理してほしいと要望があった。

5. 齋藤会長より報告

日臨技理事会報告

①新型コロナウイルスに関わるワクチン接種の実技研修開催状況

実技研修実施が16県、うち7県が打ち手として参加。

実技研修受講者 : 1648名(青森県60名)

ワクチン接種件数 : 111,684件(青森県0名)

協力臨床検査技師数 : 433名(青森県0名)

②令和4年度診療報酬改定に係る要望書について

外来診療科の包括要件の見直し、関節液結晶鏡検同定の新設、末梢血液像/骨髓像 特殊染色加算の増点など多数要望を提出

③国へ提出した令和4年度予算・税制等に関する要望書/一般政策要求

新興感染症に対する体制整備の要望

- ・保健所等行政機関への臨床検査技師配置強化の要望
- ・SARS-CoV-2 外部精度管理調査への財政支援
- ・臨床検査技師の実人員把握のための関係法令の一部改正

タスク・シフト/シェアを推進するための要望

国民の健康を測る検体検査の品質・精度確保のための要望

- ・精度管理の義務化
- ・高度な知識・技術を必要とする検体検査の品質の確保のための人的要件新設の要望

不妊治療の保険適用へ向けての体制整備の要望

④日臨技表彰規定改定

- ・永年職務精励賞の表彰要件
- ・支部学術奨励賞、日臨技特別功労賞、日臨技学術奨励賞の推薦者、推薦手続き
- ・日臨技貢献賞（個人、法人）を新設
- ・その他、実務手続きの明確化

⑤日臨技「災害対策支援規程」等および当該規定に基づく都道府県技師会との協定締結について

詳細は木村渉外部長から報告

⑥日臨技無料職業紹介所の廃止

インターネット等の普及により無料職業紹介所を通じて就職が決まる人が例年10人未満と少なく、場所・人材の確保が難しいため無料職業紹介所を廃止し、求人情報として継続することとなった。

【議題】

1. 講師料について

齋藤会長より講師料についての再確認と提案があった。

現在の講師料・・ 県外技師：1時間以上 20,000円、1時間未満 10,000円

県内技師：1時間以上 10,000円、30～59分 5,000円

30分未満 2,500円

ハンズオン講師 3,000円

となっている。現状は講演時間で講師料を算出していたが、質疑応答含めたプログラムの時間で講師料を算出してはどうかという提案があった。木村渉外部長より30分未満の金額を30～59分と同様にしたらどうかと提案があった。野坂理事よりハンズオン講師はハンズオンモデルのことで、表記が分かりにくいいためきちんと明記したらどうかとの提案があった。審議した結果講師料などは以下1)～3)の通り、出席者全員が異議なく承認された。

1) 講師料は質疑応答含めたプログラムの時間で算出する

2) ハンズオン講師はハンズオンの講習時間で算出する

3) 講師料・・ 県外技師：1時間以上 20,000円、1時間未満 10,000円

県内技師：1時間以上 10,000円、1時間未満 5,000円

ハンズオン患者役 3,000円

2. 青臨技学会進捗

総会と学会を同日の1日で開催する。ホテルサンルートで実施し、情報交換会は実施しない。

ハイブリット開催とし、WEB関係はインフォメディアリにお願いしている。

演題募集の案内は1月に、抄録・演題登録は3月末までとすることとなった。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

3. 会誌

会員名簿は載せず、施設名・住所・電話番号のみ記載。現在論文は12編提出され、査読中。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

4. 70周年について

齋藤会長より、令和4年度で青臨技が70周年となる。どのような形で70周年記念を実施するか検討したいとの提案があった。60周年と同様に青臨技会誌を記念号として発行することとなった。野坂理事より、通常の会誌と記念号となると負担が大きくなるため記念誌は別のチームで行ったかどうかとの提案があった。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

5. 精度管理講習会

開催日、会場について審議し、3月12日に八戸市ユートリーでハイブリット開催の提案があった。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

6. 災害対策マニュアル

齋藤会長より、日臨技と協定を結ぶことについて提案があった。

日臨技災害対策マニュアルに準拠した災害対策マニュアルを令和4年度各県で作成することとなったことから青臨技災害マニュアルを更新する。マニュアル・協定書を木村渉外部長、小山内理事、各支部長で協議し作成することとなった。またビブスや緊急車両ステッカー等の備品について確認し、適所に配置することとなった。

理事に了承を求めたところ、出席者全員が異議なく了承された。

【その他】

1. 日臨技施設調査と会員意識調査

齋藤会長より、日臨技施設調査と会員意識調査が行われているが、前回の回答率が25%程度と低かったので、各施設で回答を働きかけてほしい。

2. 日臨技会長選挙について

齋藤会長より、日臨技会長選書の投票を忘れないよう各施設でも呼びかけてほしい。

3. 臨床検査技師100人会議

石山学術部長より12月26日(日)に第0回として臨床検査技師100人会議が開催される。第1回は1月を予定していてそのキックオフの位置づけで実施される予定。学生は無料、技師は1回500円となる予定。詳細が分かり次第改めてサイボウズで回覧します。

議長は以上をもって審議を終了したことを告げた。